

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 国語 科目 文学国語
教科：国語 科目：文学国語 単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ F 組

使用教科書：（ 筑摩書房『文学国語』 ）

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】的確な読解に必要な語彙力を身につけ、文章を的確に読むために活用する。

【思考力、判断力、表現力等】読解した内容に基づき、自らの考えを論理的に構築し、的確に言語で表現する。

【学びに向かう力、人間性等】自分の考えをよりの確に伝わるものにするために、構成や展開、表現方法を工夫し続ける。

科目 文学国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
文学作品の読解に必要な語彙の知識や技能を身に付ける。文学史の流れとしてとらえ、作品が成立した時代背景の知識を得る。	作品が成立した時代背景を意識しながら読解を深める。論理的に思考して自らの意見を構築し、他者と関わりあうことで伝え合う力を高め、自分の思いや考えをさらに広げたり深めたりする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとしたり、自分の意見をより伝わりやすいものに磨き上げていく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学 期	「舞姫」（森鷗外） 【知識及び技能】 ・本文中の常用漢字や語句・語彙を正しく理解する。 ・文章の効果的な組立て方や接続の仕方について、その構造や特色などを理解する。 ・作品に関連する文学史の事項について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・文学史の事項に関連させながら、作品を読解する。 ・自分の考えや事柄を的確に伝え、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・作品全体をとおして興味を持った点について、自分なりの考えを持ち、表現しようとする。 ・作品の描写から自分なりの読みを考え、他者に説明しようとする。	・登場人物が経験したことについて、文章構成をもとに把握し、自分に照らして考えを深める。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・作品の出版となった作品を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・語彙を豊かにし、正しく活用する。 ・読書の意義と効用を理解する。 ・教材…「舞姫」（森鷗外） ・一人1台端末の活用	○	○	○	【知識及び技能】 ・本文中に用いられる主な常用漢字や語句・語彙、また文章の効果的な組立て方や接続の仕方について、その構造や特色などを理解している。 ・作品に関連する文学史の事項を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自分の考えや事柄を的確に伝え、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫している。 ・作品に関連する文学史の事項を踏まえて読解に活かしている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・作品全体をとおして興味を持った点について、自分なりの考えを持ち、表現しようとしている。 ・作品の描写から自分なりの読みを考えて、他者に的確に説明しようとしている。	○	○	○	12
	定期考査				【知識及び技能】 ・本文中に用いられる主な常用漢字や語句・語彙、また文章の効果的な組立て方や接続の仕方について、その構造や特色などを理解している。 ・主張と論拠、推論の仕方など、情報の扱い方について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自分の考えや事柄を的確に伝え、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫している。 ・道徳標識の具体例を踏まえ、非言語による表現について論じる叙述の方法を把握している。 ・作品が展開されている場や、登場人物の特徴を的確に読み取り、まとめている。	○	○		1	
	「舞姫」（森鷗外） 【知識及び技能】 ・本文中の常用漢字や語句・語彙を正しく理解する。 ・文章の効果的な組立て方や接続の仕方について、その構造や特色などを理解する。 ・作品に関連する文学史の事項について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・文学史の事項に関連させながら、作品を読解する。 ・自分の考えや事柄を的確に伝え、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・作品全体をとおして興味を持った点について、自分なりの考えを持ち、表現しようとする。 ・作品の描写から自分なりの読みを考え、他者に説明しようとする。	・登場人物が経験したことについて、文章構成をもとに把握し、自分に照らして考えを深める。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・作品の出版となった作品を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・語彙を豊かにし、正しく活用する。 ・読書の意義と効用を理解する。 ・教材…「舞姫」（森鷗外） ・一人1台端末の活用	○	○	○	【知識及び技能】 ・本文中に用いられる主な常用漢字や語句・語彙、また文章の効果的な組立て方や接続の仕方について、その構造や特色などを理解している。 ・作品に関連する文学史の事項を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自分の考えや事柄を的確に伝え、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫している。 ・作品に関連する文学史の事項を踏まえて読解に活かしている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・作品全体をとおして興味を持った点について、自分なりの考えを持ち、表現しようとしている。 ・作品の描写から自分なりの読みを考えて、他者に的確に説明しようとしている。	○	○	○	12

[illegible]

年間授業計画

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 国語 科目 文系古典演習
教科：国語 科目：文系古典演習 単位数：6 単位

対象学年組：第 3 学年 選択

使用教科書：（ 第一学習社『古典探究（古文編・漢文編）』 ）

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】的確な読解に必要な語彙力を身につけ、文章を的確に読むために活用する。

【思考力、判断力、表現力等】読解した内容に基づき、自らの考えを論理的に構築し、的確に言語で表現する。

【学びに向かう力、人間性等】自分の考えをよりの確に伝わるものにするために、構成や展開、表現方法を工夫し続ける。

科目 文系古典演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
文学作品の読解に必要な語彙の知識や技能を身に付ける。文学史の流れとしてとらえ、作品が成立した時代背景の知識を得る。	作品が成立した時代背景を意識しながら読解を深める。論理的に思考して自らの意見を構築し、他者と関わりあうことで伝え合う力を高め、自分の思いや考えをさらに広げたり深めたりする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学 期	古文 物語『源氏物語』	・『源氏物語』の表現の特色を知り、物語の面白さや登場人物の心情を考察させる。				知識・理解 伝統的な言語文化の語彙や文法について理解し知識をえられたかの観点から、定期考査、小テストの成績をもとに評価する。 思考・判断 文章の内容を把握し、要旨をまとめたり意見を表現したりすることができるかという観点から小テスト、定期考査及びワークシートの内容を総合的に評価する。 主体的に取り組む態度 我が国の伝統的な言語文化について、主体的に学ぶ事ができたかという観点から、授業への取り組み、課題への取り組みを総合的に評価する。				48
	漢文 漢詩 李白「独坐敬亭山」 王維「九月九日」 杜甫「江村」 陶潛「責子」 杜甫「石壕吏」 諸家の思想「韓非子」	・古体詩の特色を理解させる。 ・漢文特有の表現を理解させる。 ・すでに学習した諸家の思想と読み比べ、違いを考察させる。	○	○	○		○	○	○	
	定期考査		○	○	○		○	○		2
	古文 物語『源氏物語』	・『源氏物語』の表現の特色を知り、物語の面白さや登場人物の心情を考察させる。								48
2 学 期	漢文 逸話「不若人有其宝」「不死之道」 屈原「漁父辞」 李白「春夜宴從弟桃花園序」 柳宗元「捕蛇者説」	・漢文の話の展開を理解させるとともに、登場人物の心理・性格についてそれぞれの言動から把握し、話を考察させる。 ・漢文特有の表現を理解させる。	○	○	○		○	○	○	
	定期考査		○	○	○		○	○		2
	古文 日記『更級日記』 物語『大鏡』	・『更級日記』『大鏡』の表現の特色を知らせ、物語の面白さや登場人物の心情を考察させる。 ・話の展開を理解させるとともに、登場人物の心理・性格についてそれぞれの言動から把握し、話を考察させる。				生徒の理解度等に応じて、確認テストや入試問題の演習を取り入れるなどして、基礎力の完成及び応用力の養成を図る。				48
	漢文 司馬遷『史記』より「管鮑之交」「孫臏」「張儀」 「売柑者言」 入試問題演習		○	○	○		○	○	○	
	定期考査		○	○	○		○	○		2
	古文 随筆『枕草子』 評論『去来抄』	・『枕草子』の表現の特色を知らせ、物語の面白さや登場人物の心情を考察させる。 ・代表的な歌論を読み、評論用語を理解する。 ・話の展開を理解させるとともに、登場人物の心理・性格についてそれぞれの言動から把握し、話を考察させる。 ・生徒の理解度等に応じて、確認テストや入試問題の演習を取り入れるなどして、基礎力の完成及び応用力の養成を図る。								48
	漢文 「売柑者言」 入試問題演習		○	○	○		○	○	○	

高等学校 令和7年度（3 学年用） 教科 地歴公民 科目 世界史探究

教科： 地歴公民 科目： 世界史探究 単位数： 4 単位

対象学年組：第 3 学年 C 組～ F 組

使用教科書：（ 詳説世界史 世界史探究 （山川出版社） ）

教科 地歴公民 の目標：

【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 世界史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を身に付けている。また多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	・ヨーロッパ世界の変容と展開 ・東アジア世界の展開とモンゴル帝国 ・大交易・大交流の時代 ・アジアの諸帝国の繁栄 ・近世ヨーロッパ世界の動向	・封建社会が解体に向かった背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ・10世紀前半に東アジアで政権の交替があいついだ背景や、そこで成立した諸国の共通点を理解する。 ・10～12世紀の東アジアの情勢について、東アジア内の交流と再編を中心に理解する。 ・主権国家および主権国家体制の成立について、それまでのヨーロッパの状況と比較したうえで理解する。	【知識・技能】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について理解し知識をえられたかの観点から、定期考査、小テストの成績をもとに評価する。 【思考・判断】歴史的概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力がついたかという観点から定期考査、授業プリントの内容を総合的に評価する。 【主体的に取り組む態度】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が身に付いているかという観点から、授業への取り組み、小テストや課題への取り組みを総合的に評価する。	○	○	○	30
	定期考査			○	○		1
	・産業革命と環大西洋革命 ・イギリスの優位と欧米国民国家の形成 ・アジア諸地域の動揺 ・帝国主義とアジアの民族運動	・産業革命が18世紀後半のイギリスから始まった背景や技術革新の展開を理解する。 ・19世紀前半のヨーロッパ情勢がどのように推移したのかを、ウィーン体制や1848年革命、さまざまな主義主張の特徴とあわせて理解する。 ・欧米諸国の進出の経緯と東アジア諸国の改革の試みの成果や課題を理解する。 ・列強による世界分割がどのように進められたかや列強体制の変化について理解する。	【知識・技能】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について理解し知識をえられたかの観点から、定期考査、小テストの成績をもとに評価する。 【思考・判断】歴史的概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力がついたかという観点から定期考査、授業プリントの内容を総合的に評価する。 【主体的に取り組む態度】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が身に付いているかという観点から、授業への取り組み、小テストや課題への取り組みを総合的に評価する。	○	○	○	30
	定期考査			○	○		1
2 学期	・第一次世界大戦と世界の変容 ・第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	・第一次世界大戦後に形成された国際秩序の内容やその特徴、その後の国際関係の変化について理解する。 ・第二次世界大戦の対立の構図と勃発から終戦までの経緯を理解する。 ・第二次世界大戦後に形成された国際秩序の特徴を、それ以前との相違点をふまえて理解する。	【知識・技能】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について理解し知識をえられたかの観点から、定期考査、小テストの成績をもとに評価する。 【思考・判断】歴史的概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力がついたかという観点から定期考査、授業プリントの内容を総合的に評価する。 【主体的に取り組む態度】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が身に付いているかという観点から、授業への取り組み、小テストや課題への取り組みを総合的に評価する。	○	○	○	22

	定期考査			○	○		1
	・ 冷戦と第三世界の台頭 ・ 冷戦の終結と今日の世界	・ 冷戦の進展と、冷戦のもとで第三世界の台頭がどのように進んだのかや、キューバ危機を経て国際社会が核兵器の制限にどのように取り組んだのかを理解する。 ・ 冷戦終結後の各地の状況や地域・民族紛争、経済における世界の一体化について、国際情勢をふまえたうえで理解する。	【知識・技能】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について理解し知識をえられたかの観点から、定期考査、小テストの成績をもとに評価する。 【思考・判断】歴史的概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力がついたかという観点から定期考査、授業プリントの内容を総合的に評価する。 【主体的に取り組む態度】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が身についているかという観点から、授業への取り組み、小テストや課題への取り組みを総合的に評価する。	○	○	○	22
	・ 共通テスト演習	・ 演習を行い共通テストに対応できる力を身につける		○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
	定期考査			○	○		1
3 学 期	・ 論述対策 ・ 個別指導	・ 論述対策を含めた個別指導を行い、私立大学の個別試験や国公立二次試験に対応できる力を身につける。	【知識・技能】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について理解し知識をえられたかの観点から、定期考査、小テストの成績をもとに評価する。 【思考・判断】歴史的概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力がついたかという観点から定期考査、授業プリントの内容を総合的に評価する。 【主体的に取り組む態度】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が身についているかという観点から、授業への取り組み、小テストや課題への取り組みを総合的に評価する。	○	○	○	12
							合計
							140

年間授業計画 新様式例

高等学校 令和7年度（3 学年用） 教科 地歴公民 科目 世界史探究演習

教 科： 地歴公民 科 目： 世界史探究演習 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 C 組～ F 組

使用教科書：（ 詳説世界史 世界史探究 （山川出版社） ）

教科 地歴公民 の目標：

【知 識 及 び 技 能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 世界史探究演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を身に付けている。また多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・ ヨーロッパ世界の変容と展開 ・ 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 ・ 大交易・大交流の時代 ・ アジアの諸帝国の繁栄 ・ 近世ヨーロッパ世界の動向	・ 封建社会が解体に向かった背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ・ 10世紀前半に東アジアで政権の交替があいついだ背景や、そこで成立した諸国の共通点を理解する。 ・ 10～12世紀の東アジアの情勢について、東アジア内の交流と再編を中心に理解する。 ・ 主権国家および主権国家体制の成立について、それまでのヨーロッパの状況と比較したうえで理解する。	【知識・技能】 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について理解し知識をえられたかの観点から、定期考査、小テストの成績をもとに評価する。 【思考・判断】 歴史的概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力がついたかという観点から定期考査、授業プリントの内容を総合的に評価する。 【主体的に取り組む態度】 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が身に付いているかという観点から、授業への取り組み、小テストや課題への取り組みを総合的に評価する。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
	・ 産業革命と環大西洋革命 ・ イギリスの優位と欧米国民国家の形成 ・ アジア諸地域の動揺 ・ 帝国主義とアジアの民族運動	・ 産業革命が18世紀後半のイギリスから始まった背景や技術革新の展開を理解する。 ・ 19世紀前半のヨーロッパ情勢がどのように推移したのかを、ウィーン体制や1848年革命、さまざまな主義主張の特徴とあわせて理解する。 ・ 欧米諸国の進出の経緯と東アジア諸国の改革の試みの成果や課題を理解する。 ・ 列強による世界分割がどのように進められたかや列強体制の変化について理解する。	【知識・技能】 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について理解し知識をえられたかの観点から、定期考査、小テストの成績をもとに評価する。 【思考・判断】 歴史的概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力がついたかという観点から定期考査、授業プリントの内容を総合的に評価する。 【主体的に取り組む態度】 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が身に付いているかという観点から、授業への取り組み、小テストや課題への取り組みを総合的に評価する。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
2 学 期	・ 第一次世界大戦と世界の変容 ・ 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	・ 第一次世界大戦後に形成された国際秩序の内容やその特徴、その後の国際関係の変化について理解する。 ・ 第二次世界大戦の対立の構図と勃発から終戦までの経緯を理解する。 ・ 第二次世界大戦後に形成された国際秩序の特徴を、それ以前との相違点をふまえて理解する。	【知識・技能】 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について理解し知識をえられたかの観点から、定期考査、小テストの成績をもとに評価する。 【思考・判断】 歴史的概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力がついたかという観点から定期考査、授業プリントの内容を総合的に評価する。 【主体的に取り組む態度】 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が身に付いているかという観点から、授業への取り組み、小テストや課題への取り組みを総合的に評価する。	○	○	○	10

	定期考査			○	○		1
	・ 冷戦と第三世界の台頭 ・ 冷戦の終結と今日の世界	・ 冷戦の進展と、冷戦のもとで第三世界の台頭がどのように進んだのかや、キューバ危機を経て国際社会が核兵器の制限にどのように取り組んだのかを理解する。 ・ 冷戦終結後の各地の状況や地域・民族紛争、経済における世界の一体化について、国際情勢をふまえたうえで理解する。	【知識・技能】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について理解し知識をえられたかの観点から、定期考査、小テストの成績をもとに評価する。 【思考・判断】歴史的概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力がついたかという観点から定期考査、授業プリントの内容を総合的に評価する。 【主体的に取り組む態度】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が身についているかという観点から、授業への取り組み、小テストや課題への取り組みを総合的に評価する。	○	○	○	10
	・ 共通テスト演習	・ 演習を行い共通テストに対応できる力を身につける		○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	定期考査			○	○		1
3 学 期	・ 論述対策 ・ 個別指導	・ 論述対策を含めた個別指導を行い、私立大学の個別試験や国公立二次試験に対応できる力を身につける。	【知識・技能】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について理解し知識をえられたかの観点から、定期考査、小テストの成績をもとに評価する。 【思考・判断】歴史的概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力がついたかという観点から定期考査、授業プリントの内容を総合的に評価する。 【主体的に取り組む態度】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が身についているかという観点から、授業への取り組み、小テストや課題への取り組みを総合的に評価する。	○	○	○	6
							合計 70

高等学校 令和7年度（3 学年用） 教科 地歴公民 科目 日本史探究

教 科： 地歴公民 科 目： 日本史探究 単位数： 4 単位

対象学年組：第 3 学年 C, D, E, F組

使用教科書：（『詳説日本史 日本史探究』山川出版社）

教科 日本史探究 の目標：

【知 識 及 び 技 能】現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して現代社会における諸課題に対して向き合う力を養う。

科目 日本史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
古代からの歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその他の日本を広く相互的な視野から捉え、様々な諸課題の形成に関わる日本の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	古代からの歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して現代社会における諸課題に対して向き合う力を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	①南北朝の争乱が長期化した要因を理解させる。 ②3代将軍足利義満の治世を解説し、義満の政策が室町幕府の強化にどうつながったかを重点的に留意する。 ③4代将軍足利義持の治世から8代足利義政の治世を解説し、幕府がどう斜陽し衰退したかを理解させる。 ④応仁の乱・明応の政変を経て戦国時代に突入した経過を理解させる。 ⑤貫高制・寄親寄子制・分国法など戦国大名の領国支配を理解させる。 ⑥織田信長・豊臣秀吉の統一事業を理解させる。	①室町幕府の成立 ②室町幕府の展開 ③室町幕府の衰退 ④戦国時代の到来 ⑤戦国大名の領国支配 ⑥織豊政権の成立	【知識・技能】日本の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について理解し知識をえられたかの観点から、定期考査、小テストの成績をもとに評価する。 【思考・判断】歴史的概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力がついたかという観点から定期考査、授業プリントの内容を総合的に評価する。 【主体的に取り組む態度】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が身についているかという観点から、授業への取り組み、小テストや課題への取り組みを総合的に評価する。	○	○	○	30
	定期考査			○	○		1
	①江戸幕府の大名統制・職制について理解させる。 ②4代将軍家綱から7代家継までの治世を理解させる。（文治政治・元禄時代・正徳の治の解説） ③享保の改革・田沼時代・寛政の改革・天保の改革を理解させる。 ④11代将軍徳川家斉の治世、欧米列強の日本接近を理解させる。 ⑤ペリー来航から欧米列強との条約調印の経過、及び尊王攘夷運動について理解させる。 ⑥薩長土肥の連合政権（明治政府）の成立過程を理解させる。	①江戸幕府の成立 ②江戸時代中期政治 ③三大改革・田沼時代 ④大御所時代・列強の接近 ⑤江戸幕府の滅亡 ⑥明治政府の成立	【知識・技能】日本の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について理解し知識をえられたかの観点から、定期考査、小テストの成績をもとに評価する。 【思考・判断】歴史的概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力がついたかという観点から定期考査、授業プリントの内容を総合的に評価する。 【主体的に取り組む態度】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が身についているかという観点から、授業への取り組み、小テストや課題への取り組みを総合的に評価する。	○	○	○	30
	定期考査			○	○		1

2 学 期	①版籍奉還・廃藩置県・地租改正を理解させる。 ②征韓論と各氏族の反乱がどう結びついたかを理解させる。また自由民権運動の経過を説明し、財政政策である松方財政（デフレ政策）と民権運動との関係性を理解させる。 ③明治憲法の成立過程・また第1議会から第6議会までの初期議会、政府と民党の対立を理解させる。 ④朝鮮半島侵略という外交方針、更に列強のアジア侵略の観点から日清戦争・日露戦争を理解させる。 ⑤⑥桂園時代の展開と韓国併合、また第1次世界大戦における日本の外交について理解させる。	①明治維新の諸政策 ②士族の反乱と自由民権運動 ③明治憲法発布と初期議会 ④日清戦争と日露戦争 ⑤桂園時代と大正政変 ⑥大正デモクラシーと第1次世界大戦	【知識・技能】日本の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について理解し知識をえられたかの観点から、定期考査、小テストの成績をもとに評価する。 【思考・判断】歴史的概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力がついたかという観点から定期考査、授業プリントの内容を総合的に評価する。 【主体的に取り組む態度】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が身に付いているかという観点から、授業への取り組み、小テストや課題への取り組みを総合的に評価する。	○	○	○	33
	定期考査			○	○		1
	①大戦後の恐慌・関東大震災・震災恐慌・金融恐慌・昭和恐慌・金融禁の財政政策を理解させる。 ②閉塞感を打破する観点からの満州事変・血盟団事件・五・一五事件などのテロ事件を理解させる。 ③日中戦争の展開、更に日独伊三国同盟締結とアメリカとの戦争である太平洋戦争の経過・惨禍を理解させる。 ④GHQ（アメリカ）による日本占領政策、また米ソ対立により占領政策の変更を理解させる。 ⑤米ソ対立の代理戦争である朝鮮戦争と朝鮮特需について理解させる。そして特需が高度経済成長に発展した過程を理解させる。 ⑥平成不況時代の社会の実相を理解させる。	①戦後恐慌から昭和恐慌の時代・関東大震災 ②満州事変からの戦時体制 ③日中戦争・太平洋戦争 ④GHQによる占領政策・米ソ対立の構造 ⑤朝鮮戦争・占領時代の終焉・朝鮮特需から高度経済成長時代 ⑥平成時代（米ソ対立の終焉・バブル崩壊後の平成不況	【知識・技能】日本の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について理解し知識をえられたかの観点から、定期考査、小テストの成績をもとに評価する。 【思考・判断】歴史的概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力がついたかという観点から定期考査、授業プリントの内容を総合的に評価する。 【主体的に取り組む態度】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が身に付いているかという観点から、授業への取り組み、小テストや課題への取り組みを総合的に評価する。	○	○	○	33
	定期考査			○	○		1
3 学 期	①共通テスト・難関大学の入試問題を解き、解説する。	①大学入試問題演習	【知識・技能】日本の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について理解し知識をえられたかの観点から、定期考査、小テストの成績をもとに評価する。 【思考・判断】歴史的概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力がついたかという観点から定期考査、授業プリントの内容を総合的に評価する。 【主体的に取り組む態度】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が身に付いているかという観点から、授業への取り組み、小テストや課題への取り組みを総合的に評価する。	○	○	○	10
							合計
							140

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 地歴公民 科目 日本史探究演習

教科： 地歴公民 科目： 日本史探究演習 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 C, D, E, F組

使用教科書：（『詳説日本史 日本史探究』山川出版社）

教科 日本史探究演習 の目標：

【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して現代社会における諸課題に対して向き合う力を養う。

科目 日本史探究演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
古代からの歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、様々な諸課題の形成に関わる日本の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	古代からの歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して現代社会における諸課題に対して向き合う力を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	①南北朝の争乱が長期化した要因を理解させる。 ②3代将軍足利義満の治世を解説し、義満の政策が室町幕府の強化にどうつながったかを重点的に留意する。 ③4代将軍足利義持の治世から8代足利義政の治世を解説し、幕府がどう斜陽し衰退したかを理解させる。 ④応仁の乱・明応の政変を経て戦国時代に突入した経過を理解させる。 ⑤貫高制・寄親・寄子制・分国法など戦国大名の領国支配を理解させる。 ⑥織田信長・豊臣秀吉の統一事業を理解させる。	①室町幕府の成立 ②室町幕府の展開 ③室町幕府の衰退 ④戦国時代の到来 ⑤戦国大名の領国支配 ⑥織豊政権の成立 上記の問題演習	【知識・技能】日本の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について理解し知識をえられたかの観点から、定期考査、小テストの成績をもとに評価する。 【思考・判断】歴史的概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力がついたかという観点から定期考査、授業プリントの内容を総合的に評価する。 【主体的に取り組む態度】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が身についているかという観点から、授業への取り組み、小テストや課題への取り組みを総合的に評価する。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
	①江戸幕府の大名統制・職制について理解させる。 ②4代将軍家綱から7代家継までの治世を理解させる。（文治政治・元禄時代・正徳の治の解説） ③享保の改革・田沼時代・寛政の改革・天保の改革を理解させる。 ④11代将軍徳川家斉の治世、欧米列強の日本接近を理解させる。 ⑤ペリー来航から欧米列強との条約調印の経過、及び尊王攘夷運動について理解させる。 ⑥薩長土肥の連合政権（明治政府）の成立過程を理解させる。	①江戸幕府の成立 ②江戸時代中期政治 ③三大改革・田沼時代 ④大御所時代・列強の接近 ⑤江戸幕府の滅亡 ⑥明治政府の成立 上記の問題演習	【知識・技能】日本の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について理解し知識をえられたかの観点から、定期考査、小テストの成績をもとに評価する。 【思考・判断】歴史的概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力がついたかという観点から定期考査、授業プリントの内容を総合的に評価する。 【主体的に取り組む態度】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が身についているかという観点から、授業への取り組み、小テストや課題への取り組みを総合的に評価する。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1

2 学 期	①版籍奉還・廃藩置県・地租改正を理解させる。 ②征韓論と各氏族の反乱がどう結びついたかを理解させる。また自由民権運動の経過を説明し、財政政策である松方財政（デフレ政策）と民権運動との関係性を理解させる。 ③明治憲法の成立過程・また第1議会から第6議会までの初期議会、政府と民党の対立を理解させる。 ④朝鮮半島侵略という外交方針、更に列強のアジア侵略の観点から日清戦争・日露戦争を理解させる。 ⑤⑥桂園時代の展開と韓国併合、また第1次世界大戦における日本の外交について理解させる。	①明治維新の諸政策 ②士族の反乱と自由民権運動 ③明治憲法発布と初期議会 ④日清戦争と日露戦争 ⑤桂園時代と大正政変 ⑥大正デモクラシーと第1次世界大戦 上記の問題演習	【知識・技能】日本の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について理解し知識をえられたかの観点から、定期考査、小テストの成績をもとに評価する。 【思考・判断】歴史的概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力がついたかという観点から定期考査、授業プリントの内容を総合的に評価する。 【主体的に取り組む態度】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が身に付いているかという観点から、授業への取り組み、小テストや課題への取り組みを総合的に評価する。	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
	①大戦後の恐慌・関東大震災・震災恐慌・金融恐慌・昭和恐慌・金融解禁の財政政策を理解させる。 ②閉塞感を打破する観点からの満州事変・血盟団事件・五・一五事件などのテロ事件を理解させる。 ③日中戦争の展開、更に日独伊三国同盟締結とアメリカとの戦争である太平洋戦争の経過・惨禍を理解させる。 ④GHQ（アメリカ）による日本占領政策、また米ソ対立により占領政策の変更を理解させる。 ⑤米ソ対立の代理戦争である朝鮮戦争と朝鮮特需について理解させる。そして特需が高度経済成長に発展した過程を理解させる。 ⑥平成不況時代の社会の実相を理解させる。	①戦後恐慌から昭和恐慌の時代・関東大震災 ②満州事変からの戦時体制 ③日中戦争・太平洋戦争 ④GHQによる占領政策・米ソ対立の構造 ⑤朝鮮戦争・占領時代の終焉・朝鮮特需から高度経済成長時代 ⑥平成時代（米ソ対立の終焉・バブル崩壊後の平成不況 上記の問題演習	【知識・技能】日本の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について理解し知識をえられたかの観点から、定期考査、小テストの成績をもとに評価する。 【思考・判断】歴史的概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力がついたかという観点から定期考査、授業プリントの内容を総合的に評価する。 【主体的に取り組む態度】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が身に付いているかという観点から、授業への取り組み、小テストや課題への取り組みを総合的に評価する。	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
3 学 期	①共通テスト・難関大学の入試問題を解き、解説する。	①大学入試問題演習	【知識・技能】日本の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について理解し知識をえられたかの観点から、定期考査、小テストの成績をもとに評価する。 【思考・判断】歴史的概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力がついたかという観点から定期考査、授業プリントの内容を総合的に評価する。 【主体的に取り組む態度】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が身に付いているかという観点から、授業への取り組み、小テストや課題への取り組みを総合的に評価する。	○	○	○	4
							合計
							70

年間授業計画 新様式例

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 地歴公民 科目 地理探究
教 科： 地歴公民 科 目： 地理探究 単位数： 4 単位
対象学年組： 第 3 学年 C 組～ 組

使用教科書：（ 新詳地理探究〔帝国書院〕 ）

教科 地歴公民 の目標：

【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 地理探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・都市、居住問題、衣食住、民族・宗教と民族問題に関する演習問題が解ける ・中国、韓国、ASEAN諸国、インドに関する演習問題が解ける	・都市、居住問題 ・衣食住 ・民族・宗教と民族問題 ・中国、韓国、ASEAN諸国、インド	授業を聴くと同時に、プリントに記入したり作業をしながら、内容の理解を深め、考察できたか。授業時の応答、定期考査により理解度を評価する。				30
	定期考査			○	○	○	1
	西アジアと中央アジア、北アフリカとサハラ以南アフリカ、EU諸国、ロシアに関する演習問題が解ける	・西アジアと中央アジア ・北アフリカとサハラ以南アフリカ ・EU諸国 ・ロシア	授業を聴くと同時に、プリントに記入したり作業をしながら、内容の理解を深め、考察できたか。授業時の応答、定期考査により理解度を評価する。				30
	定期考査			○	○	○	1
2 学 期	アメリカ、ラテンアメリカ、オーストラリア、ニュージーランドに関する演習問題が解ける	・アメリカ ・ラテンアメリカ ・オーストラリア、ニュージーランド	授業を聴くと同時に、プリントに記入したり作業をしながら、内容の理解を深め、考察できたか。授業時の応答、定期考査により理解度を評価する。				33
	定期考査			○	○	○	1
	共通テスト問題に対応できる力を身につける。私立大学の個別試験や国公立二次試験に対応できる力を身につける。	・共通テスト問題演習 ・大学入試問題演習	授業を聴くと同時に、プリントに記入したり作業をしながら、内容の理解を深め、考察できたか。授業時の応答、定期考査により理解度を評価する。				33
	定期考査			○	○	○	1
3 学 期	共通テスト問題に対応できる力を身につける。私立大学の個別試験や国公立二次試験に対応できる力を身につける。	・共通テスト問題演習 ・大学入試問題演習	授業を聴くと同時に、プリントに記入したり作業をしながら、内容の理解を深め、考察できたか。授業時の応答、定期考査により理解度を評価する。	○	○	○	10
							合計 140

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 数学 科目 数学Ⅲ
教科： 数学 科目： 数学Ⅲ 単位数： 4 単位

対象学年組： 第 3 学年 選択

使用教科書：（数研出版 数学Ⅲ

教科 数学

の目標：

【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学Ⅲ の目標： 極限、微分法及び積分法について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 関数 第2章 極限	○取り扱う関数を分数関数や無理関数に広げて関数概念の理解を一層深め、表、式、グラフを相互に関連付けて多面的に考察できるようにする。また、合成関数や逆関数の意味を理解し、多項式関数、分数関数や無理関数などを用いて、合成関数や逆関数を求めることができるようにする。 ○数列の極限について、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりして、極限を求められる方法を考察できるようにする。また、無限等比級数の収束、発散についても理解できるようにする。 多項式関数、分数関数、無理関数、三角関数、指数関数及び対数関数の関数値の極限を求めることができるようにする。また、関連して関数の連続性について理解できるようにする。	知識・技能 数学における基本的な概念に関して理解し知識をえられたかの観点から、定期考査、小テストの成績をもとに評価する。 思考・判断 得られた知識を活用したり、図・表などを読み取るなど、思考力がついたかの観点から小テスト、定期考査の内容を総合的に評価する。 主体的に取り組む態度 数学のよさを認識し、積極的に活用しているかという観点から、授業への取り組み、提出物への取り組みを総合的に評価する。	○	○	○	22
	定期考査			○	○		1
	第3章 微分法 第4章 微分法的应用	○微分の公式を発展させ、和、差、積、商及び合成関数、逆関数の微分法を理解できるようにする。 多項式関数だけでなく、分数関数、無理関数、三角関数、指数関数及び対数関数の導関数について理解できるようにする。 ○さまざまな関数について、接線の方程式を求めたり、関数の値の増減、極大・極小、グラフの凹凸などを調べグラフの概形をかいたりできるようにするとともに、関数の局所的な変化や大域的な変化に着目し、事象を数学的に捉え、問題を解決する力を養う。 微分法の有用性を認識できるよう、微分法を速度・加速度などの考察に活用できるようにする。		○	○	○	23
	定期考査			○	○		1
2 学 期	第5章 積分法 第6章 積分法的应用	○積分法の基本的な性質や置換積分法及び部分積分法について理解できるようにする。また、微分法の公式からいろいろな関数の不定積分の公式を導き、不定積分を求めることができるようにする。 いろいろな関数の定積分が求められるようにする。また、定積分と和の極限の関係を理解し、いろいろな問題に活用できるようにする。 積分法の有用性を認識し、図形の面積や立体の体積を求めることなどに活用できるようにする。		○	○	○	27
	定期考査			○	○		1

3 学 期	入試問題演習	入試問題を利用して問題演習を行う				27
	定期考査		○	○		1
	入試問題演習	入試問題を利用して問題演習を行う				36
						合計
						139

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 数学 科目 数学Ⅲ演習

教科： 数学 科目： 数学Ⅲ演習 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 選択

使用教科書：（数研出版 数学Ⅲ ）

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学Ⅲ演習 の目標： 極限、微分法及び積分法について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 関数 第2章 極限	○取り扱う関数を分数関数や無理関数に広げて関数概念の理解を一層深め、表、式、グラフを相互に関連付けて多面的に考察できるようにする。また、合成関数や逆関数の意味を理解し、多項式関数、分数関数や無理関数などを用いて、合成関数や逆関数を求めることができるようにする。 ○数列の極限について、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりして、極限を求められる方法を考察できるようにする。また、無限等比級数の収束、発散についても理解できるようにする。 多項式関数、分数関数、無理関数、三角関数、指数関数及び対数関数の関数値の極限を求めることができるようにする。また、関連して関数の連続性について理解できるようにする。	知識・技能 数学における基本的な概念に関して理解し知識をえられたかの観点から、定期考査、小テストの成績をもとに評価する。 思考・判断 得られた知識を活用したり、図・表などを読み取るなど、思考力がついたかの観点から小テスト、定期考査の内容を総合的に評価する。 主体的に取り組む態度 数学のよさを認識し、積極的に活用しているかという観点から、授業への取り組み、提出物への取り組みを総合的に評価する。	○	○	○	11
	定期考査			○	○		1
	第3章 微分法 第4章 微分法の実用	○微分の公式を発展させ、和、差、積、商及び合成関数、逆関数の微分法を理解できるようにする。 多項式関数だけでなく、分数関数、無理関数、三角関数、指数関数及び対数関数の導関数について理解できるようにする。 ○さまざまな関数について、接線の方程式を求めたり、関数の値の増減、極大・極小、グラフの凹凸などを調べグラフの概形をかいたりできるようにするとともに、関数の局所的な変化や大域的な変化に着目し、事象を数学的に捉え、問題を解決する力を養う。 微分法の有用性を認識できるよう、微分法を速度・加速度などの考察に活用できるようにする。		○	○	○	11
	定期考査			○	○		1
2 学 期	第5章 積分法 第6章 積分法の実用	○積分法の基本的な性質や置換積分法及び部分積分法について理解できるようにする。また、微分法の公式からいろいろな関数の不定積分の公式を導き、不定積分を求めることができるようにする。 いろいろな関数の定積分が求められるようにする。また、定積分と和の極限の関係を理解し、いろいろな問題に活用できるようにする。 積分法の有用性を認識し、図形の面積や立体の体積を求めることなどに活用できるようにする。		○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	入試問題演習	入試問題を利用して問題演習を行う					13

	定期考査		○	○		1
3 学 期	入試問題演習	入試問題を利用して問題演習を行う				18
						合計
						70

高等学校 令和7年度（3学年用）教科 数学 科目 数学C

单位数： 2 单位

選択

)

の目標：

【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

[illegible]

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 数学 科目 理系数学演習

教科： 数学 科目： 理系数学演習 単位数： 6 単位

対象学年組： 第 3 学年 選択

使用教科書：（ ）

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 理系数学演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現し、図形の性質を論理的に考察し、事象を的確に表現して数学的に考察する力、関数に着目して事象を数学的に考察し、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	数学 I 1 数と式 2. 2 次関数 3. 図形と計量 4. データの分析	キートレーニングを利用、 式の計算、1 次不等式、集合、命 題と論証 2 次関数、最大・最小、2 次方程 式・不等式 三角比の基本、三角比と図形 三角比の基本的な定理を確認し、 図形への応用問題（辺の長さ、面 積）が解けるようにさせる。 データの代表値の散らばり、デー タの相関に関する基本問題と標準 問題を行う。 基本的な計算や記号の確認を行 う。 用語や計算方法などを確認してい く。データからわかることを考察 していく。	知識・技能 数学における基本的な概念に関して理解し知 識をえられたかの観点から、定期考査、小テ ストの成績をもとに評価する。 思考・判断 得られた知識を活用したり、図・表などを読 み取るなど、思考力がついたかの観点から小 テスト、定期考査の内容を総合的に評価す る。 主体的に取り組む態度 数学のよさを認識し、積極的に活用している かという観点から、授業への取り組み、提出 物への取り組みを総合的に評価する。	○	○	○	35
	定期考査			○	○		1
	数学 A 5. 場合の数と確率 6. 図形の性質 7. 整数の性質	順列、組合せ、独立試行の確率、 反復試行の確率、条件付き確率 確率の基本計算や乗法定理、条件 付確率などを理解していく。CやP の計算方法を確認し、適切に立式 ができるようにさせる。 三角形の性質、円の性質、方べき の定理、空間の性質 三角形の内心や外心、重心を理解 し長さや角度を求められるように させる。 空間図形において、面や辺の数な どを求められるようにさせる。 円の性質を理解し、長さや角度が 求められるようになる。 約数や倍数の角形を理解し、1 次 不定方程式やユークリッドの互除 法が適切に利用し求められるよう にさせる。 キートレーニングを利用して、発 展問題・実践問題を行う。時間を 区切って問題を効率よく解くこと を身に付けさせる。 キートレーニングを利用して、発 展問題・実践問題を行う。時間を 区切って問題を効率よく解くこと を身に付けさせる。 順列、組合せ、独立試行の確率、 反復試行の確率、条件付き確率 三角形の性質、円の性質、方べき の定理、空間の性質 n 進数、ユークリッドの互除法、 不定方程式の解法		○	○	○	35

	定期考査		○	○		1
2 学 期	・二項定理、整式の除法、分数式の計算 ・恒等式、等式・不等式の証明 ・複素数とその計算、2次方程式の理論 ・剰余の定理・因数定理、高次方程式 ・点と直線、曲線と直線 ・軌跡と領域、三角関数(1) ・三角関数(2)、指数関数・対数関数(1)	基本的な計算から応用問題までができるようにする。 分母の有理化や対称式の性質を理解し、それを用いて問題を解けるようにする。 恒等式の性質を理解し、それを用いて適切に問題を解けるようにさせる。 複素数の計算、相互関係を理解し、適切に計算できるようにさせる。 高次方程式が適切に計算できるようにさせる。 点と直線、曲線と直線を理解し、それを適切に用いて問題を解くことができるようにさせる。 三角関数を理解し、それを適切に用いて問題を解くことができるようにさせる。 三角関数の計算が適切に行うことができるようにさせる。	○	○	○	41
	定期考査		○	○		1
	指数関数・対数関数(2) ・導関数と接線、関数の値の変化 ・微分法的应用、不定積分、定積分 ・面積(1)(2) ・等差数列・等比数列、種々の数列 ・漸化式と数列、数学的帰納法・数列の応用 ・ベクトル、ベクトルと平面図形 ・ベクトルと空間図形 ・統計的な推測	指数・対数の計算が適切に行うことができるようにさせる。 指数関数・対数関数のグラフを理解させる。 導関数と接線の公式を理解し、それを適切に用いて問題を解くことができるようにさせる。 微分・積分の計算が適切に行うことができるようにさせる。 接線や面積の計算が適切に行うことができるようにさせる。 ベクトルの考え方・性質を理解し、それを用いて適切に問題を解くことができるようにさせる。 空間図形の考え方を理解し、問題を解くことができるようにさせる。 数列の性質や公式を理解し、それを適切に用いて問題を解くことができるようにさせる。 漸化式を理解し、それを適切に用いて問題を解くことができるようにさせる。 帰納法を理解し、それを適切に用いて問題を解くことができるようにさせる。 統計分野全般の性質や公式を理解し、それを適切に用いて問題を解くことができるようにさせる。	○	○	○	41
	定期考査		○	○		1
3 学 期	入試演習	入試問題を利用して問題演習を行う	○	○	○	54
合計						210

高等学校 令和 7 年度（3 学年用） 教科 数学 科目 文系数学演習 β

教 科： 数学 科 目： 文系数学演習 β 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 選択

使用教科書： （ ）

教科 数学 の目標：

【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 文系数学演習β の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現し、図形の性質を論理的に考察し、事象を的確に表現して数学的に考察する力、関数に着目して事象を数学的に考察し、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・二項定理、整式の除法、分数式の計算 ・恒等式、等式・不等式の証明 ・複素数とその計算、2次方程式の理論 ・剰余の定理・因数定理、高次方程式 ・点と直線、曲線と直線 ・軌跡と領域、三角関数(1) ・三角関数(2)、指数関数・対数関数(1) 指数関数・対数関数(2) ・導関数と接線、関数の値の変化 ・微分法的应用、不定積分、定積分 ・面積(1)(2)	基本的な計算ができるようにする。 分母の有理化や対称式の性質を理解し、それを用いて問題を解けるようにする。 恒等式の性質を理解し、それを用いて適切に問題を解けるようにさせる。 複素数の計算、相互関係を理解し、適切に計算できるようにさせる。 高次方程式が適切に計算できるようにさせる。 点と直線、曲線と直線を理解し、それを適切に用いて問題を解くことができるようにさせる。 三角関数を理解し、それを適切に用いて問題を解くことができるようにさせる。 三角関数・指数・対数の計算が適切に行うことができるようにさせる。 指数関数・対数関数のグラフを理解させる。 導関数と接線の公式を理解し、それを適切に用いて問題を解くことができるようにさせる。 微分・積分の計算が適切に行うことができるようにさせる。 接線や面積の計算が適切に行うことができるようにさせる。	【知識及び技能】 数学における基本的な概念に関して理解し知識をえられたかの観点から、定期考査、小テストの成績をもとに評価する。	○	○	○	11
			【思考力、判断力、表現力等】 得られた知識を活用したり、図・表などを読み取るなど、思考力がついたかの観点から小テスト、定期考査の内容を総合的に評価する。	○	○		1
			【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し、積極的に活用しているかという観点から、授業への取り組み、提出物への取り組みを総合的に評価する。	○	○	○	11
				○	○		1
2 学 期	・ベクトル、ベクトルと平面図形 ・ベクトルと空間図形 ・等差数列・等比数列、種々の数列 ・漸化式と数列、数学的帰納法・数列の応用 ・統計的な推測	ベクトルの考え方・性質を理解し、それを用いて適切に問題を解くことができるようにさせる。 空間図形の考え方を理解し、問題を解くことができるようにさせる。 数列の性質や公式を理解し、それを適切に用いて問題を解くことができるようにさせる。 漸化式を理解し、それを適切に用いて問題を解くことができるようにさせる。 帰納法を理解し、それを適切に用いて問題を解くことができるようにさせる。 統計分野全般の性質や公式を理解し、それを適切に用いて問題を解くことができるようにさせる。		○	○	○	13
				○	○		1
				○	○	○	13
				○	○		1
3 学 期	共通テスト練習問題	共通テスト向けの問題に取り組み、共通テストの形式に慣れ、理解を深めさせる。		○	○	○	18
							合計
							79

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 理科 科目 物理
教科： 理科 科目： 物理 単位数： 6 単位

対象学年組：第 3 学年 選択

使用教科書：（「物理」 数研出版 ）

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

【思考力、判断力、表現力等】観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 物理 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通過して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	●各項目を理解する。 物体が帯電する仕組み 静電誘導 電場・電位 電位差と仕事、演習	●各項目について、物理的・論理的に理解し、説明できるようになる。。 ・静電気 ・物体が帯電する仕組み ・クーロンの法則 ・静電誘導・誘電分極 ・電場・電位 ・電位差と仕事 ・電場と電位差の関係 演習	<評価の観点> ①関心・意欲・態度――自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。			○	26
	定期考査		②思考・判断・表現――自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通過して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	○	○		1
	●各項目を理解する。 物質と電場 導体と電場 不導体と電場 演習 コンデンサー コンデンサーの電気容量 コンデンサーと誘電体 コンデンサーの接続 コンデンサーに蓄えられるエネルギー 演習 電流 直流回路 演習	●各項目について、物理的・論理的に理解し、説明できるようになる。。 ・静電気による位置エネルギー ・電位の導出 ・1つの点電荷のまわりの電位 ・電位の重ね合わせ ・導体内部の電場と電位 ・接地 ・静電遮蔽 ・コンデンサーの原理 ・電気容量の定義 ・平行版コンデンサーの電場 ・平行版コンデンサーの電気容量 ・誘電体のはたらき ・実際のコンデンサー ・並列接続 ・直列接続 ・導体、誘電体の挿入 ・コンデンサーの放電 ・静電エネルギー 演習 ・電子の運動と電流 ・オームの法則の意味 ・抵抗率 ・物質と抵抗率 ・抵抗と温度 ・抵抗率の温度変化 ・ジュール熱 ・電力量と電力 ・直列接続 ・直列接続の合成抵抗 ・並列接続 ・並列接続の合成抵抗 ・電流計・分流器・電圧計・倍率器 ・キルヒホッフの法則 演習	③観察・実験の技能観察――実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの科過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。 ④知識・理解――自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 <評価の方法> 定期考査、実験レポート、提出課題等で評価する。			○	50
	定期考査			○	○		1
2 学 期	●各項目を理解する。 交流の発生 交流回路 電磁波 ○電子と光 電子 光の粒子性 X線 粒子の波動性 ○原子と原子核 原子の構造とエネルギー単位 原子核 演習	●各項目について、物理的・論理的に理解し、説明できるようになる。 ・n型、p型半導体 ・半導体ダイオード ・整流作用 ・トランジスタ ・磁場中で発生する力 ・透磁率 ・磁束密度 ・磁束 ・磁化と透磁率 ・レンツの法則 ・ファラデーの電磁誘導の法則 ・自己インダクタンス ・相互インダクタンス ・光子仮説 ・光電効果 ・X線の発生 ・X線の波動性とブラッグの条件 ・X線の粒子性とコンプトン効果 ・物質波 ・電子線の干渉・回折 ・ラザフォードの原子模型 ・水素原子のスペクトル ・ボーアの理論 ・エネルギー単位とスペクトル系列 ・同位体 演習				○	34
	定期考査			○	○		1

	●各項目を理解する。 射線とその性質 核反応と核エネルギー 素粒子 総合演習	●各項目について、物理的・論理的に理解し、説明できるようになる。 ・α崩壊・β崩壊・半減期 ・核反応・質量とエネルギーの等価性 ・核エネルギー・核分裂反応 ・核融合反応 ・自然の階層性と素粒子・クォーク 演習			○	42
	定期考査		○	○		1
	総合演習	物理全分野の総合演習で、思考力を育成する。				54
3 学 期						合計
						210

高等学校 令和7年度（3学年用）教科 理科 科目 化学

单位数： 6 单位

)

の目標：

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての観察、実験などを行うことを通して、物質とその変化に関する基本的な概念や原理、法則の理解を固めるとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	物質とその変化を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の方法を習得させるとともに、報告書を作成させたり発表させたりして、科学的に探究する力を養う。	物質とその変化に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	化学平衡	可逆反応と化学平衡 平衡状態の変化 電解質水溶液の化学平衡	実験レポート、課題・宿題、授業への取り組み等を総合的に判断する。			○	26
	無機物質	非金属元素					
	定期考査			○	○		1
	無機物質	金属元素（Ⅰ） 典型元素 金属元素（Ⅱ） 遷移元素 有機化合物の分類と分析 脂肪族炭化水素 アルコールと関連化合物	実験レポート、課題・宿題、授業への取り組み等を総合的に判断する。			○	50
	有機化合物						
	定期考査			○	○		1
2 学期	有機化合物	芳香族化合物	実験レポート、課題・宿題、授業への取り組み等を総合的に判断する。			○	34
	高分子化合物	高分子化合物の性質 天然高分子化合物 合成高分子化合物					
	定期考査			○	○		1
	総合問題演習	総合問題演習	実験レポート、課題・宿題、授業への取り組み等を総合的に判断する。			○	42
	定期考査			○	○		1
3 学期	総合問題演習	総合問題演習	実験レポート、課題・宿題、授業への取り組み等を総合的に判断する。			○	54
							合計
							210

高等学校 令和7年度（3 学年用） 教科 理科 科目 生物

单位数： 6 单位

)

の目標・

【学びに向かう力 人間性等】自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通理して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。

[illegible]

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	問題演習 物質の構成 純物質と混合物 物質とその成分 物質の分離・精製	物質の状態に関して、状態変化について学び、その中で気体の性質について基本的な性質を理解できるようにする。実在気体と理想気体の違いについても触れる。	知識・技能 自然科学における基本的な概念に関して理解し知識をえられたかの観点から、定期考査、単元テストの成績をもとに評価する。	○	○	○	12
	定期考査	粒子の結合に関して、イオン結合や金属結合では結晶格子についても学び、分子結晶の構造や水素結合などにも触れる。	思考・判断 科学的な知識を活用したり、図・表などを読み取るなど、思考力がついたかという観点から定期考査、実験レポートの内容を総合的に評価する。	○	○		1
	問題演習 粒子の結合			○	○	○	13
	定期考査		主体的に取り組む態度 科学的な現象を論理的に理解し、身近な現象に応用しているかという観点から、授業への取り組み、実験・観察レポートや課題への取り組みを総合的に評価する。	○	○		1
2 学期	問題演習 物質量と化学反応式 物質量 化学反応式と物質量	物質量について、化学反応式の量的関係に関する課題に対応できるように指導する。		○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	酸と塩基の反応 酸・塩基 水溶液のpH 中和反応 塩	酸と塩基の反応に関連して、溶液の性質について理解できるように指導する。		○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
3 学期	酸化還元反応 酸化と還元 酸化剤と還元剤 金属の酸化還元反応 電池と電気分解 化学反応と熱 総合問題演	電池と電気分解について酸化還元反応で説明できるようにする。 電池と電気分解が、化学エネルギーと電気エネルギーの変換であることが理解できるように指導する		○	○	○	16
							合計
							70

高等学校 令和7年度（3 学年用） 教科 理科 科目 生物基礎演習

单位数： 2 单位

使用教科書：（ ）

の目標：

【思考力、判断力、表現力等】観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

単元の具体的な指導目標		指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期		- 代謝には同化と異化があること、また、代謝に伴うエネルギーの移動にはATPが関わることを理解している。 - 光合成と呼吸では、共にATPの合成が行われていることを理解している。	- 代謝には同化と異化があること、また、代謝に伴うエネルギーの移動にはATPが関わっていることを理解する。 - 光合成は、光エネルギーによってATPをつくり、このエネルギーによって有機物を合成することを理解する。	<評価の観点> ①関心・意欲・態度――自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。		○	12
	定期考査			②思考・判断・表現――自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通理して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	○	○	1
		- 遺伝子とDNAと染色体の関係を理解する。 - DNAの構造の特徴を見だし、DNAの基本的な構造を理解する。 - 塩基の相補性にもとづいてDNAが複製されていることを理解する。 - 多細胞生物では、分裂している細胞には細胞周期がみられることを理解する。	- 遺伝子とDNAと染色体の関係、DNAの構造の特徴、DNAの半保存的複製を理解している。 - 細胞分裂時、DNAは2個の娘細胞に等しく分配されることを理解している。	③観察・実験の技能観察――実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの科過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。		○	13
	定期考査				○	○	1
2 学 期		- 体液の種類と関係について理解している。 - 赤血球、白血球、血小板、血しょうの特徴や働きを理解している。 - 脳幹の働きと、脳死について理解する。 - 自律神経系は交感神経と副交感神経が拮抗的に働くことによって体内環境を調節していることを理解する。	- 恒常性と体液の種類である血液、組織液、リンパ液について理解する。 - 脳幹の働きと脳死について理解している。 - 交感神経と副交感神経の分布と働きを理解している。 - さまざまな内分泌系のしくみとホルモンの働きを理解している。	④知識・理解――自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 <評価の方法> 定期考査、実験レポート、提出課題等で評価する。		○	12
	定期考査				○	○	1
		- 皮膚などによる生体防御について理解している。 - 自然免疫・獲得免疫のしくみ、抗原抗体反応のしくみ、二次応答を理解している。 - アレルギー・自己免疫疾患・エイズのしくみを理解している。 - 予防接種や血清療法は、二次応答を利用した医療であることを理解している。	- 皮膚や粘膜による生体防御について理解する。 - 免疫を担う細胞や器官の種類と働きの概要を理解する。 - 自然免疫のしくみを理解する。 - 獲得免疫による病原体排除の流れを理解する。 - 二次応答や拒絶反応が起こるしくみを理解する。			○	13
	定期考査				○	○	1
3 学 期	共通テスト対策問題演習	共通テスト対策問題演習					16
							合計
							70

年間授業計画 様式例

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 保健体育 科目 体育
教 科： 保健体育 科 目： 体育 単位数： 3 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ F 組

教科担当者：（ ABEF組：佐藤、植木、増田、金島、石塚）（CD組：佐藤、植木、増田、金島）

使用教科書：（ 新高等保健体育（大修館書店）、図説新高等保健（大修館書店）、ステップアップ高校スポーツ2025（大修館書店） ）

教科 保健体育 の目標：

- 【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的・計画的な実践を通して運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	単元1：バレー ※選択制 単元2：バスケ 単元3：サッカー 単元4：テニス 共通：体力テストの計測 【知識・技能】 ・基礎技能の習得 ・健康・安全の技能習得 【思考・判断・表現】 ・運動や健康についての課題発見 ・解決に向けた思考・判断・表現 【主体的に学習に取り組む態度】 ・継続して運動に親しむ	基礎技能・知識 ・パス、サーブ、スパイク ・パス、ドリブル、シュート ・サーブ、ストローク、ボレー ・基礎ルール、審判 指導形式 ・一斉指導 ・ペア・グループ学習 教具・教材 ・ボール、ゴール、ピブス、タイマー ・教科書、副教材 ・ICT端末 ・振り返りカード	【知識・技能】 ・各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに技能を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ・運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに他者に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生涯にわたって継続して運動に親しむことができる。 ・健康の保持増進と体力の向上を目指し明るく豊かで活力ある生活を営む態度が身についている。	○	○	○	42
	スキルテスト			○	○		1
2 学 期	単元1：バレー ※選択制 単元2：卓球 単元3：サッカー 単元4：テニス 共通：体育理論 【知識・技能】 ・基礎技能の習得 ・健康・安全の技能習得 【思考・判断・表現】 ・運動や健康についての課題発見 ・解決に向けた思考・判断・表現 【主体的に学習に取り組む態度】 ・継続して運動に親しむ	基礎技能・知識 ・パス、サーブ、スパイク ・サーブ、ストローク、スマッシュ ・サーブ、ストローク、ボレー ・基礎ルール、審判 指導形式 ・一斉指導 ・ペア・グループ学習 教具・教材 ・ボール、ゴール、ピブス、タイマー ・教科書、副教材 ・ICT端末 ・振り返りカード	【知識・技能】 ・各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに技能を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ・運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに他者に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生涯にわたって継続して運動に親しむことができる。 ・健康の保持増進と体力の向上を目指し明るく豊かで活力ある生活を営む態度が身についている。	○	○	○	42
	スキルテスト			○	○		1

3 学 期	単元1：バレー 単元2：卓球 単元3：サッカー 単元4：テニス 共通：体育理論 ※選択制 【知識・技能】 ・基礎技能の習得 ・健康・安全の技能習得 【思考・判断・表現】 ・運動や健康についての課題発見 ・解決に向けた思考・判断・表現 【主体的に学習に取り組む態度】 ・継続して運動に親しむ	基礎技能・知識 ・各種ストローク ・基礎ルール、審判 ・ランニングフォーム 指導形式 ・一斉指導 ・ペア・グループ学習 教具・教材 ・ラケット、ボール、タイマー ・教科書、副教材 ・ICT端末 ・振り返りカード	【知識・技能】 ・各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに技能を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ・運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに他者に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生涯にわたって継続して運動に親しむことができる。 ・健康の保持増進と体力の向上を目指し明るく豊かで活力ある生活を営む態度が身についている。	○	○	○	18
	スキルステスト			○	○		1
							合計
							105

年間授業計画

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 芸術 科目 音楽Ⅲ

教科：芸術

科目：音楽Ⅲ

単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年 選択

使用教科書：（Joy of Music 教育芸術社）

教科 芸術

の目標：芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 音楽Ⅲ

の目標：音楽系大学受験の生徒の合格に向けた実技指導、面接指導、音楽理論の習得に努める。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			歌	器	創						
1 学 期	A 単元 【知識及び技能】 楽典 音程マスター 音階マスター 調音・新曲演習	・指導事項 大学入試に向け。必要な力を身に付ける。 ・教材 コンコーネ50番 コーリユーブンゲン 大学入試問題過去問集	○	○		○	制限時間内に正確に判定できる力をつける。 ・音程 ・音階 ・調整 ・音楽用語	○	○	○	6
	【思考力、判断力、表現力等】 【知識及び技能】 楽典 和音について 調判定について 専攻主科 楽器演奏	・指導事項 ・教材 コンコーネ50番 コーリユーブンゲン 大学入試問題過去問集 楽典(黄色本)				○	新曲視唱を正確に美しく歌うことができるように指導する。 ・新曲視唱問題 桐朋音楽大学問題集 東京音楽大学問題集 武蔵野音楽大学問題集	○	○	○	6
	【知識及び技能】 副科 ピアノ演習 楽典 過去問 演習 調音・新曲 演習	・ベートーヴェン 第九鑑賞 小澤征爾指揮 サイトウキネンオーケストラ ・第九 合唱部分 歌唱 ・教材 コンコーネ50番 コーリユーブンゲン 大学入試問題過去問集 楽典(黄色本)	○	○	○	○	ソルフェージュに関する力を高める指導を行う。 ・初見能力の向上と演習 ・新曲視唱問題 桐朋音楽大学問題集 東京音楽大学問題集 武蔵野音楽大学問題集 東京学芸大学過去問	○	○	○	6
	【知識及び技能】 楽典 和音について 調判定について 専攻主科 楽器演奏	・教材 コンコーネ50番 コーリユーブンゲン 大学入試問題過去問集 楽典(黄色本)	○	○	○	○	楽典回答能力を高める 楽典基礎演習 桐朋音楽大学問題集 東京音楽大学問題集 武蔵野音楽大学問題集 東京学芸大学過去問	○	○	○	8
2 学 期	【知識及び技能】 応用レベル問題演習	・第九 合唱部分 歌唱 ・教材 コンコーネ50番 コーリユーブンゲン 大学入試問題過去問集 楽典(黄色本)	○	○	○	○	歌唱能力の向上 初見能力と歌唱表現能力の向上を図る 過去問を丁寧に正確に解く力を養う。 楽典の基礎能力を確立する。	○	○	○	14
	【知識及び技能】 音楽用語と表現 実際の楽曲での使用例を検証	・第九 合唱部分 歌唱 ・教材 コンコーネ50番 コーリユーブンゲン 大学入試問題過去問集 楽典(黄色本)	○	○	○	○	一人でも堂々と人前で演奏する感覚を身に付ける。 入試も演奏会のように、説得力と音楽性のある豊かな演奏をするよう指導する。	○	○	○	16

[illegible]

高等学校 令和7年度（3 学年用） 教科 芸術 科目 音楽探究

教科：藝術

科目：音樂探究

单位数： 2 单位

対象学年組：第 3 学年 選択

教育芸術社

)

教科 芸術

の目標： 芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 音樂探究

の目標： ヴァイオリン奏法など、実技の体験を通して一生音楽を愛好する感性を豊かに育む。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			歌	器	創						
1 学 期	大学受験で音楽が必要な生徒に対する指導	受験時に必要な試験内容の確認					知識・技能 音楽表現における基本的な技能を習得できているかという観点から、実技試験、発表会での成果をもとに評価する。	○	○	○	6
	弦楽器の歴史	ヴァイオリン属について（楽器の歴史）	○			○					
	ヴァイオリン実技	楽器について 素材、各所名称、弦の名前など 調弦、弓の持ち方、楽器の構え方 開放弦の演奏 ファーストポジション 初歩的なメソッドで演奏練習 音階、第九のメロディ		○		○	思考・判断 音楽をツールとして表現の仕方を模索できているかという観点から実技試験、発表会での内容を総合的に評価する。	○	○	○	12
		合奏 スコアをみながら鑑賞 DVD（小澤征爾指揮）鑑賞 ベートーヴェンについて	○			○	主体的に取り組む態度 音楽表現に自らの意思を投影し、多様な音楽体験を積めるようになってきているかという観点から、授業への取り組み、実技発表や発表会への取り組みを総合的に評価する。	○	○	○	8
	ベートーヴェン第九	第九を合唱しよう！					各ポイント ・ヴァイオリン・・正しい姿勢、正しい持ち方、正しいボーイングを意識して取り入れているか。 ・ヴァイオリン・・正しい音程をとろうと努めているか。 ・意欲的に実技に取り組んでいるか。 ・キーボードでピアノ演奏演習の際、背筋を伸ばして肘のポジションを適切にコントロールできているか。 ・手首の動きをしなやかに滑らかに音階を弾こうと取り組んでいるか。 ・日本歌曲の歌唱にあたり、正確な音程で美しい日本語の発声を目指して発声しているか。 ・人前で堂々と歌うことができるか。	○	○	○	16
2 学 期	鑑賞と合唱	キーボードで演奏しよう。 ピアノ基礎技法 音階、カデンツ バイエル96番程度の楽曲の演奏 ～ 運指法、体の使い方、実技指導 ピアノ合奏	○			○		○	○	○	8
	ピアノ実技	花、早春賦、夏の思い出、この道、赤とんぼ、椰子の実など（幼児教育科受験生対応）	○	○	○	○		○	○	○	16
3 学 期	日本歌曲歌唱	CAPS 紙コップを使ったリズム音楽の創作 自分たちで選択した楽曲に振り付けを考えて発表する。	○	○	○	○	・紙コップを使ってリズムと動きを組み合わせ、グループで協力して一つの作品を創り上げる。過去の先輩の動画を参考に、オリジナルの作品を考えることができるか。	○	○	○	10
	創作										
3 学 期											
											合 計 60

年間授業計画 新様式例

高等学校 令和7年度（3学年用）教科 外国語 科目 英語コミュニケーションⅢ
 教科：外国語 科目：英語コミュニケーションⅢ 4 単位
 対象学年組：第 3 学年 A 組～ F 組
 使用教科書：（ Element English Communication Ⅲ（啓林館）, Cutting Edge Blue（エミール））
 教科 英語コミュニケーションⅢ

【知識及び技能】外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの論理展開や概要、要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったり、会話を発展させることができる力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

科目 英語コミュニケーションⅢ

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
英語コミュニケーションⅠ・Ⅱで学習した文法事項に加えて、語彙や表現などの用法や意味を理解している。また、報告文や新聞記事などの多様な英文から情報を読み取り、整理しながら理解したり、自身の考えや意見を学習した語句や文を適切に活用して、発信したりする技能を身に付けている。	日常的な話題の新聞記事、物語、インタビュー、ニュース、また社会的な話題の論証文や記録文を聞いたり読んだりして、情報や考えなどの論理展開や概要、要点を的確に捉えている。また、本書で学習した内容について、自身の考えや意見を明確な理由や根拠とともに、詳しく伝えている。	日常的、社会的な話題についての内容を理解しようとしている。また、学習した内容を相手に配慮しながら、主体的、自律的に伝えようとしている。理解した情報ややり取りをした内容について効果的な理由や根拠とともに、まとまりのある文章を書こうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 （ や ）	話 （ 発 ）	書					
1 学 期	Lesson 1, Chapter 1, 2	・語句の意味. 文法事項および発音を定着させる。 ・錯視とは何なのかを理解させる。						・文法事項や語句及び発音などが理解している。 ・錯視が日常生活に使われている方法について理解できる。 ・錯視が日常生活に使われている方法について自ら理解しようとしている。	○	○	○	12
	Energy 教育と病気 最後のメッセージ	・紹介される錯視の効果と使用例を読み取らせる。	○	○	○	○	○					
	Lesson 2, Chapter 3, 4	・語句の意味. 文法事項および発音を定着させる。 世界人口の増加をもたらした契機について読み取らせる。 ・世界人口の増加により生じる問題について理解させる。						・文法事項や語句及び発音などが理解している。 世界人口の増加をもたらした契機について理解できる ・世界人口の増加により生じる問題について理解できる。	○	○	○	12
	Environment and Life 目の大きさと脳の関係 液体燃料問題		○	○	○	○	○					
	定期考査								○	○		1
	Lesson 3, Chapter 5, 6	・語句の意味. 文法事項および発音を定着させる。 ヒットソングに関する研究者が行った実験方法とその結果を理解させる。 ・研究者が実験を通して、考察している内容を読み取らせる。						・文法事項や語句及び発音などが理解している。 ヒットソングに関する研究者が行った実験方法とその結果を理解できる。 ・研究者が実験を通して、考察している内容を読み取らせる。	○	○	○	12
	Health and Life 貴重な教訓 コークVSペプシ		○	○	○	○	○					
2 学 期	Lesson 4, Chapter 7, 8	・語句の意味. 文法事項および発音を定着させる。 ・ユダヤ人の難民と当時の状況について理解させる。 ・杉原千畝がユダヤ人の難民に対してビザを発行した意義を理解させる。						・文法事項や語句及び発音などが理解している。 ・ユダヤ人の難民と当時の状況について理解できる。 ・杉原千畝がユダヤ人の難民に対してビザを発行した意義を理解できる。	○	○	○	12
	Humans and Technology 動物の社会的距離 睡眠の役割		○	○	○	○	○					
	定期考査								○	○		1
	Lesson 5, Chapter 9, 10	・語句の意味. 文法事項および発音を定着させる。 蝶の不規則な飛び方を可能にしている要因を読み取らせる。 ・蝶の羽の色が生存戦略にどう関係しているかを理解させる。						・文法事項や語句及び発音などが理解している。 蝶の不規則な飛び方を可能にしている要因を理解できる。 ・蝶の羽の色が生存戦略にどう関係しているかを理解できる。	○	○	○	12
	Diversity 口論と真実 オーガニック		○	○	○	○	○					
	Lesson 6, Chapter 11, 12	・語句の意味. 文法事項および発音を定着させる。 ・ブライス氏が開いた展示会について読み取らせる。 ・ブライス氏の東日本大震災後の行動と理由を理解させる。						・文法事項や語句及び発音などが理解している。 ・ブライス氏が開いた展示会について理解できる。 ・ブライス氏の東日本大震災後の行動と理由を理解できる。	○	○	○	13
	Education 自動運転車 AIと仕事		○	○	○	○	○					
	定期考査								○	○		1

[illegible]

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 外国語 科目 論理表現Ⅲ

教科： 外国語 科目： 論理表現Ⅲ 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 A 組～ F 組

使用教科書： Vision Quest English Logic and ExpressionⅢ（啓林館）・クローザー頻出英文法・語法問題（文英堂）・入試必携英作文（数研出版）

教科 外国語 の目標：

【知識及び技能】 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの論理展開や概要、要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったり、会話を発展させることができる力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

科目 論理表現Ⅲ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
英語の特徴や決まりに関する事項及びその働きや役割を理解している。 目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合うことができる技能を身につけている。	目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合っている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手など他者に配慮しながら、主体的・自律的に表現しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話（や）	話（発）					
1 学 期	・ランダムに出題された文法語法問題を正確に答えることができる。 ・言えそうで言えない表現や動詞の意味を理解し適切に使うことができる。 ・適切な主語を用いて英文を書くことができる。 ・目的の表現を適切に使って英文を書くことができる。	入試問題の基礎・応用養成 クローザー Lesson1 Write to the Point Lesson1・2	○	○		○	・ランダムに出題された文法語法問題を正確に答えることができる。 ・言えそうで言えない表現や動詞の意味を理解し適切に使うことができる。 ・適切な主語を用いて英文を書くことができる。 ・目的の表現を適切に使って英文を書くことができる。	○	○	○	6
	・ランダムに出題された文法語法問題を正確に答えることができる。 ・前置詞を用いた表現を覚える。 ・理由の表現を適切に使って英文を書くことができる。 ・時制を適切に使い分け英文を書くことができる。	入試問題の基礎・応用養成 クローザー Lesson2・3 Write to the Point Lesson3・4	○	○		○	・ランダムに出題された文法語法問題を正確に答えることができる。 ・前置詞を用いた表現を覚える。 ・理由の表現を適切に使って英文を書くことができる。 ・時制を適切に使い分け英文を書くことができる。	○	○	○	7
	定期考査		○	○	○	○		○	○		1
	・ランダムに出題された文法語法問題を正確に答えることができる。 ・前置詞を用いた表現を適切に使うことができる。 ・時制を適切に使い分け英文を書くことができる。 ・動詞の語法を理解して適切に英文を書くことができる。	入試問題の基礎・応用養成 クローザー Lesson4・5 Write to the Point Lesson5・6	○	○		○	・ランダムに出題された文法語法問題を正確に答えることができる。 ・前置詞を用いた表現を適切に使うことができる。 ・時制を適切に使い分け英文を書くことができる。 ・動詞の語法を理解して適切に英文を書くことができる。	○	○	○	7
	・ランダムに出題された文法語法問題を正確に答えることができる。 ・名詞・代名詞を用いた表現を学び、適切に英文を書くことができる。 ・関係代名詞・関係副詞を正しく理解し、適切に英文を書くことができる。	入試問題の基礎・応用養成 クローザー Lesson6・7 Write to the Point Lesson7・8	○	○		○	・ランダムに出題された文法語法問題を正確に答えることができる。 ・名詞・代名詞を用いた表現を学び、適切に英文を書くことができる。 ・関係代名詞・関係副詞を正しく理解し、適切に英文を書くことができる。	○	○	○	7
	定期考査		○	○	○	○		○	○		1
2 学 期	・ランダムに出題された文法語法問題を正確に答えることができる。 ・英語の感覚と使い分けを学び、適切に使うことができる。 ・数字の表現を学び、適切に英文を書くことができる。	入試問題の基礎・応用養成 クローザー Lesson8・9 Write to the Point Lesson9	○	○		○	・ランダムに出題された文法語法問題を正確に答えることができる。 ・英語の感覚と使い分けを学び、適切に使うことができる。 ・数字の表現を学び、適切に英文を書くことができる。				8
	・ランダムに出題された文法語法問題を正確に答えることができる。 ・疑問の表現および動詞を中心とした表現を学び、正しく使うことができる。 ・仮定・条件を使った基本的な表現を正しく理解して、適切に英文を書くことができる。 ・仮定・条件を使った様々な表現を正しく理解して、適切に英文を書くことができる。	入試問題の基礎・応用養成 クローザー Lesson10・11 Write to the Point Lesson10・11	○	○		○	・ランダムに出題された文法語法問題を正確に答えることができる。 ・疑問の表現および動詞を中心とした表現を学び、正しく使うことができる。 ・仮定・条件を使った基本的な表現を正しく理解して、適切に英文を書くことができる。 ・仮定・条件を使った様々な表現を正しく理解して、適切に英文を書くことができる。	○	○	○	8

[illegible]

年間授業計画 新様式例

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 外国語 科目 英語演習

教科：外国語

科目：英語演習

単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ F 組

使用教科書：（ Element English Communication II（啓林館）, Cutting Edge Orange（エミール） ）

教科 外国語

の目標：

【知識及び技能】外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの論理展開や概要、要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったり、会話を発展させることができる力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

科目 英語演習

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
英語コミュニケーションⅠ・Ⅱで学習した文法事項に加えて、語彙や表現などの用法や意味を理解している。また、報告文や新聞記事などの多様な英文から情報を読み取り、整理しながら理解したり、自身の考えや意見を学習した語句や文を適切に活用して、発信したりする技能を身につけている。	日常的话题の新聞記事、物語、インタビュー、ニュース、また社会的な話題の論証文や記録文を聞いたり読んだりして、情報や考えなどの論理展開や概要、要点を的確に捉えている。また、本書で学習した内容について、自身の考えや意見を明確な理由や根拠とともに、詳しく伝えている。	日常的、社会的な話題についての内容を理解しようとしている。また、学習した内容を相手に配慮しながら、主体的、自律的に伝えようとしている。理解した情報ややり取りをした内容について効果的な理由や根拠とともに、まとまりのある文章を書こうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 （や）	話 （発）					
1 学 期	Chapter 1 絶滅種とDNA	・語句の意味、文法事項および発音を定着させる。 ・本文の内容を理解させる	○	○	○	○	・文法事項や語句及び発音などが理解している。 ・本文の内容について理解できる。	○	○	○	3
	Chapter 2 ジョギング	・語句の意味、文法事項および発音を定着させる。 ・本文の内容を理解させる	○	○	○	○	・文法事項や語句及び発音などが理解している。 ・本文の内容について理解できる。	○	○	○	3
	Chapter 3 ああ、私のクッキーが	・語句の意味、文法事項および発音を定着させる。 ・本文の内容を理解させる	○	○	○	○	・文法事項や語句及び発音などが理解している。 ・本文の内容について理解できる。	○	○	○	3
	Chapter 4 言語の変化	・語句の意味、文法事項および発音を定着させる。 ・本文の内容を理解させる	○	○	○	○	・文法事項や語句及び発音などが理解している。 ・本文の内容について理解できる。	○	○	○	3
	定期考査							○	○		1
	Chapter 5 視覚	・語句の意味、文法事項および発音を定着させる。 ・本文の内容を理解させる	○	○	○	○	・文法事項や語句及び発音などが理解している。 ・本文の内容について理解できる。	○	○	○	3
	Chapter 6 温暖化の照明	・語句の意味、文法事項および発音を定着させる。 ・本文の内容を理解させる	○	○	○	○	・文法事項や語句及び発音などが理解している。 ・本文の内容について理解できる。	○	○	○	3
	Chapter 7 幸運な惑星	・語句の意味、文法事項および発音を定着させる。 ・本文の内容を理解させる	○	○	○	○	・文法事項や語句及び発音などが理解している。 ・本文の内容について理解できる。	○	○	○	3
	Chapter 8 検索エンジンと記憶	・語句の意味、文法事項および発音を定着させる。 ・本文の内容を理解させる	○	○	○	○	・文法事項や語句及び発音などが理解している。 ・本文の内容について理解できる。	○	○	○	3
	定期考査							○	○		1
2 学 期	Chapter 9 科学界とチンパンジー社会	・語句の意味、文法事項および発音を定着させる。 ・本文の内容を理解させる	○	○	○	○	・文法事項や語句及び発音などが理解している。 ・本文の内容について理解できる。	○	○	○	3
	Chapter 10 リパタリアン・パターンリズム	・語句の意味、文法事項および発音を定着させる。 ・本文の内容を理解させる	○	○	○	○	・文法事項や語句及び発音などが理解している。 ・本文の内容について理解できる。	○	○	○	3
	Chapter 11 COVID-19と行動変容	・語句の意味、文法事項および発音を定着させる。 ・本文の内容を理解させる	○	○	○	○	・文法事項や語句及び発音などが理解している。 ・本文の内容について理解できる。	○	○	○	3
	Chapter 12 AIと機械学習	・語句の意味、文法事項および発音を定着させる。 ・本文の内容を理解させる	○	○	○	○	・文法事項や語句及び発音などが理解している。 ・本文の内容について理解できる。	○	○	○	3
	定期考査							○	○		1

	Chapter 13 17世紀のSNS	・語句の意味、文法事項および発音を定着させる。 ・本文の内容をを理解させる	○	○	○	○	○	・文法事項や語句及び発音などが理解している。 ・本文の内容について理解できる。	○	○	○	3
	Chapter 14 米国の格差	・語句の意味、文法事項および発音を定着させる。 ・本文の内容をを理解させる	○	○	○	○	○	・文法事項や語句及び発音などが理解している。 ・本文の内容について理解できる。	○	○	○	3
	Chapter 15 写真のデジタル化	・語句の意味、文法事項および発音を定着させる。 ・本文の内容をを理解させる。	○	○	○	○	○	・文法事項や語句及び発音などが理解している。 ・本文の内容について理解できる。	○	○	○	3
	Chapter 16 誤信のメカニズム	・語句の意味、文法事項および発音を定着させる。 ・本文の内容をを理解させる	○	○	○	○	○	・文法事項や語句及び発音などが理解している。 ・本文の内容について理解できる。	○	○	○	3
	定期考査								○	○		1
3 学 期	入試問題演習	・語句の意味、文法事項および発音を定着させる。 ・本文の内容をを理解させる	○	○	○	○	○	・文法事項や語句及び発音などが理解している。 ・本文の内容について理解できる。	○	○	○	3
	入試問題演習	・語句の意味、文法事項および発音を定着させる。 ・本文の内容をを理解させる	○	○	○	○	○	・文法事項や語句及び発音などが理解している。 ・本文の内容について理解できる。	○	○	○	3
	入試問題演習	・語句の意味、文法事項および発音を定着させる。 ・本文の内容をを理解させる	○	○	○	○	○	・文法事項や語句及び発音などが理解している。 ・本文の内容について理解できる。	○	○	○	3
	入試問題演習	・語句の意味、文法事項および発音を定着させる。 ・本文の内容をを理解させる	○	○	○	○	○	・文法事項や語句及び発音などが理解している。 ・本文の内容について理解できる。	○	○	○	3
	入試問題演習	・語句の意味、文法事項および発音を定着させる。 ・本文の内容をを理解させる	○	○	○	○	○	・文法事項や語句及び発音などが理解している。 ・本文の内容について理解できる。	○	○	○	6
								合 計			70	

年間授業計画 様式例

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 総合的な探究の時間 科目 総合的な探究の時間

教科： 総合的な探究の時間 科目： 総合的な探究の時間 単位数： 1 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ F 組

教科担当者：（ A組：小川 ）（ B組：尾方 ）（ C組：宇佐美 ）（ D組：吉田 ）（ E組：佐藤 ）（ F組：太田 ）

使用教科書：（ ）

教科 **総合的な探究の時間** の目標：

【知識及び技能】これまで学習した各教科・科目の知識・技能を基礎に、持続可能な社会の形成に求められる現状と解決すべき課題を理解することができる。

【思考力、判断力、表現力等】持続可能な社会の形成を担うリーダーに求められる資質・能力・態度とは何かを探究し、自己の在り方・生き方や進路についての考察を深めることができる。

【学びに向かう力、人間性等】主体的な探究に粘り強く取り組み、他者と協働してより良い解決策を生み出し、実践することができる。

科目 総合的な探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・通常の文章のほか、図やグラフ、表等テキストから情報を取り出し、理解・解釈する力を身につける	・演繹的思考・帰納的思考・類推等の方法を使い、筋道を立てて考える力を身につける ・自らの考えを記述・論述するとともに、わかりやすく他者に伝える方法を身につける	・自己の学習目標を設定し、計画を立てて学習に取り組むとともに自己評価に基づき改善する ・問題解決にあたって、粘り強く考え、よりよい解決策を導く

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	キャリア教育（自己の適性を深める） ＜導入＞ 総合探究についてのオリエンテーション ＜展開1＞ 調査研究 レポート	全体説明会 生徒は年間の総合探究の目的と活動形態について理解させる キャリア学習ならびにレポート提出を次の内容で行わせる： ・大学、専門学校研究（取得資格、職業研究） （ 本明記せず ）	＜観点＞ ④知識・技能 ⑤思考・判断 ⑥主体的に取り組む態度 ○レポート、発表や討論、学習に対する取組みの様子から総合的に評価する。	○	○	○	13
2 学 期	＜展開2＞ 担任との質疑（入試制度の理解） ＜展開3＞ 入試制度についての説明 ＜中間報告2＞ レポートの提出 ＜展開4＞ 発表（受験校の選択）	レポートの内容をもとに担任が個に応じた指導を行わせる。 ・推薦入試制度研究（指定校推薦・公募推薦・AO推薦） ・共通テスト入試研究（評定平均値、志願書記入） ・特別活動の成果とまとめ ・面接テスト研究 ・入試応募研究 ・入試手続き研究 ・自分の進路探究をまとめ発表を行わせる。	○生徒の自己評価を活用する。 ○活動の状況を教師が観察して評価する。 ○レポートや模擬面接などから、自己理解を深め、適切に自己表現できたかを評価する。	○	○	○	13
3 学 期	＜展開5＞ 個人面談の実施（評価と改善） ＜報告＞ レポートの提出	・入試結果報告書作成（反省点、対策点報告） ・2年生へ入試体験談を語らせる。 ・「卒業後の夢」を語り合わせる。		○	○	○	9
							合計
							35